

■令和5年9月定例記者会見

日時：令和5年9月6日(水)午後3時～3時50分

場所：吹田市役所高層棟4階特別会議室

吹田市広報課

記者の皆さまからご説明させていただきました内容についてご質問いただきたいと思います。

記者

市民サービスコーナー管理事業で、5つの分室、分所のようなものがあるとのことですが、そこは来年で廃止する見通しですか。

吹田市担当者

今年の12月いっぱいまで閉める予定です。5か所ですけれども、週のうち3日やっているところ、2日やっているところ、1日だけのところということで、これまでも利用状況を見て少しずつ縮小してきておりました。コンビニでの交付の方が超えたら廃止をしようというような方向性を数年前には決めていましたが、コロナ禍で本庁や出張所へ来られる方が集中してしまうことは避けるべきだということで少し延ばしておりました。コロナが5類化したことや、マイナンバーカードの交付率も伸びてきておりますので、今年いっぱいまで閉めることを決定しました。

記者

戸籍謄本や住民票の交付というのは、本庁舎のみという形になりますか。

吹田市担当者

出張所が3か所ございます。

元々のサービスコーナーでは、出せるのが住民票の写しと印鑑証明だけで、戸籍は取れませんし、死亡や出生、転居の届けもできず、この基本の2種類の交付だけをしていました。コンビニは市内でも120か所ほどありますし、当然市外のコンビニでも取れます。取れる時間も長いですし、そちらへ移行することで、サービスコーナーの役割は終えたかなというところです。

記者

最終は12月末で終了させるということですね。

吹田市担当者

サービスは終了です。

記者

戸籍住民登録事業について、窓口業務の待ち時間が課題ということですが、具体的には今どれぐらいの待ち時間が発生していますか。

吹田市担当者

3月4月ですと数時間ということも起きております。細かな分析が、手が回らずできていないということもありまして、どのような手続きで来られた方の、どの部分に手を取られて、その他の方に長時間待っていただくことになっているのかというあたりの分析など、業務分析をしようということが今回の予算です。

3月から4月にかけては、転出入が集中するということもありまして、必ず一回は来ていただかないといけなかったりするものです。今後、国の進めることも含めてDXを進めていく中で、来させないようにする手続きになっていきますが、今の時点では転出入のために来ていただく、そこでの時間は、簡単な手続きの方もいけば、何か所も回らないといけない方もおられて、仕事半日休めば済むというようなことではきかなくなってきたというのが課題になっております。

記者

吹田市の人口が増えているというところに起因されていますか。

吹田市担当者

出られる方も入られる方も多くて、転入超過で人口が増えている状況です。

記者

部活の民間委託の件で、これは部活そのものが民間に委託されるのか、この学校のこの部活が民間委託されるというピンポイントなのか。

吹田市担当者

ピンポイントです。試行的に5部活と申し上げたのが3校でやっているバドミントンの3つと、拠点校化ということも動きとしてあります。顧問のなり手がいなかったり、引き受けられた顧問の先生の非常な超過勤務につながったりということが課題になっています。また、部員の数が少なくて部活動を選べないというような、生徒さんにとっての迷惑もありますので、まとめて複数の学校で1カ所というような拠点校化の動きもありまして、拠点で行う女子サッカーと剣道という5つを、今まで顧問の先生が担っていたような指導であったり対外試合の引率であったり、いろいろな手配などの運営を外部の事業者へ委託する形になります。

記者

学校でそれまでやっていたことを外部委託することによって、例えば複数でその部活がクラブの部員を集めて拠点校ですという形になると。これはもう始まっていますか。

吹田市担当者

初めての取り組みです。試行で5カ所を2年間やりながら、効果や課題の検証をし、今後の中学校の部活動のあり方検討ということも並行してやっていき、その結果も踏まえて、基本は外部委託に移行して

いくことを視野に入れた最初の取り組みです。

記者

いつからスタートするのかはまだ決まってないですか。

吹田市担当者

今回の予算で6年度7年度の2年間、5部活をやっていく予算を計上しています。

記者

中学校の部活の外部委託って国の方針で決めていますけど、これはいつまでというのは決まっているんですか。

吹田市担当者

いつまでというのは正確には決まっていません。

本市の状況で、顧問の先生方の異動であったり、今まであった部活動の指導をできる先生が見つからず休止になったり廃部になったりといったこともすでにあり、このままですと生徒さんが中学で活動できる部活という場がなくなってしまうであろうという課題認識のもとで、どうすれば持続可能な形でやりたい部活動を学校で続けられるかという中での取組の試行です。

記者

この試行って、全国的にも令和6年度から始まっていくということなんですか。それとも吹田が先駆けて行うものですか。

教育長

吹田が他市と全く違う状況というのは何かというと、人口増で子供たちの数も増えている。ただ、一方では少子化傾向であまり子どもが増えないところがありまして、ここではまとめてやるというようなことがあります。

もう一つは、先ほど出ましたように持続可能性。専門の先生が異動してしまったら、指導者そのものがない。しかも、中学校の部活のレベルはわりと高いということもありまして、なかなかうまくみ合っていない。だから指導者そのものが不足していることで持続可能でない。一方では、子供の数が減って持続可能でない。バドミントンなんか一つの学校で100名いるところもあります。ここはもう子供がいすぎて、バドミントンそのものがもう成り立たないこともあったりします。いろんな組み合わせをやりながら、持続可能な部活という居場所を吹田ではできるよう何とかやっていこうと考えております。

後藤市長

部活は教育の一環として位置づけられてきましたよね。本当にそうなのかという分岐点に来ているように思います。日本の特徴です。イギリスやドイツでは地域が担います。

だから必ずしも部活は学校内で全て担うべしというわけじゃない。でも、長い歴史があって、学校の先

生がそれを担うという文化がずっと続いてきた状況の中で、だんだん先生方が本業の教育が忙しくなって全部担えない。それは果たして義務なのかというのが現場からの声です。自分の時間を切り崩して大会に連れて行って、残業手当も全部出るわけではない。そこで文部科学省が動いて、外部の力をもっと借りた方がいいと全部外部化すべしという指示命令があるわけではなくて、行けるところも行けないところも、種目によっても学校によっても様々だと思います。小中学校で部活はしません、やりたい人は外でやってくださいという単純な話じゃないです。その中で最適な方法は何なのかという模索を始める。社会そのものの部活に対しての認識を変えていかないと。お金かかっていないですよ、部活。それが今後かかる可能性があるわけですので、それは反対と言うなら教師を増やさないといけないわけです。どういう選択をするかはっきり決まっていない。問題提起をここからしていただければありがたいと思います。

記者

外部委託もいろんな形があると思いますが、外部講師が学校に入るという形もあるし、クラブチームみたいところに生徒が行ってもらうという形もあるし、今のお話だと女子サッカーは拠点化するってことは、基本的にはクラブチームみたいところに生徒に入ってもらうというスタイルですか。

吹田市担当者

委託先から指導者に学校に来ていただきます。

記者

拠点化っていうのは？

吹田市担当者

複数の学校の生徒がひとつの学校に集まる形です。

記者

バトミントンも外部講師の方が来てという？

吹田市担当者

そうです。

後藤市長

教員がすべきクラブ活動であれば教員資格がいります。教員資格がなかったら、新たな問題が起こる可能性があります。教師が普通口にしなようなことを出すとか、そこは懸念される場所なので、委託の場合も一定の規定を設けた上で外に出さない。そこは非常に不安です。

どうしても有料を望まれるレベルの高いクラブがあるとしたら、お金があれば行けるけれども、なければ行けないということは起こり得ます。

吹田市広報課

他に質問がないようでしたら、これで終了させていただきます。